



信州諏訪

二十万人のお祭り

おんばしら

御柱祭

令和四千年
諏訪大社
式年造営
御柱大祭

諏訪の国

信州・諏訪大社は、上社と下社に分かれ、さらに上社は諏訪市の本宮と茅野市の前宮、下社は諏訪町に春宮と秋宮、合計4つの社殿があります。そして7年に1度巡ってくる寅と申の年に宝殿を造営し、社殿の四隅にある御柱と呼ばれるモミの大木を建て替える祭り

を行います。この祭りを「式年造営御柱大祭」、通称「御柱祭」と呼び、諏訪地方の6市町村約20万人の人々がこぞって参加する大きなお祭りです。約1200年以上前から、諏訪大社の氏子たちによって伝統が守られ、粛々とこの神事が続けられてきました。

上社の大総代に聞く

上社の大総代・笠原透さんに、まず御用材を決める仮見立て・本見立てという行事について聞きました。「上社では開催2年前に仮見立てを行います。今回はコロナ禍を考慮して、開催1年前の本見立てだけにします」と決断をくだしたそうです。

そして開催年の2月には8本の曳行分担を決める「抽選式」が行われます。地区ごとにこれぞという意中の柱があるそうですが、「どこに決まっても最後は『神様から与えられた柱』と気持ちをひとつにします」とのこと。「私たちは粛々と御神木を伐採し、曳行し、お宮に立てることが仕事。これが無事にできれば何も言うことはありません」と言葉が続きます。

上社の御柱は左右に突き出す角「めどでこ」に特徴があり、木落しから川越しは、いちばんの見せ場。この華やかな表舞台にも、それを支える裏方たちがいます。「参加する皆さんには時間厳守から始まり、細かなルールを決めて何よりも安全を優先し、氏子たちが心をひとつにしているんです」。



笠原 透さん

諏訪大社大総代
上社御柱祭安全対策実行委員会委員長

諏訪の御柱祭は、もう始まっている